

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 溪明会

目 次

I. 事業結果	2
1. 法人体制	
2. 平成 30 年度 事業運営評価と課題	
3. 法人人事	
4. 整備事業	
5. 事業実績	
II. 2018 事業所アクションプラン結果	
障害者支援施設 溪明園からまつ	6
障害者支援施設 溪明園あすなろ	7
多機能型事業所 溪明園めるへん	8
障害者支援施設 花椿きらめき	9
障害者支援施設 花椿あおぞら	10
多機能型事業所 花椿かがやき	11
ホームやつわ、ホームあやこ、ホームいするぎ	12
ホーム柴田屋、ホーム柴田屋みなみ、ホーム庄川、ホーム庄川第 2	12
障がい者サポートセンターきらり(相談系事業)	13
障がい者サポートセンターきらり(障害者就業・生活支援センター事業)	14
放課後等デイサービス事業所 きつずる一むクローバー	15
III. 統計資料	
1. 法人本部	18
2. 溪明園 からまつ/あすなろ	20
3. 溪明園 むるへん	23
4. 花椿 きらめき/あおぞら	26
5. 花椿 かがやき (いろは)	29
6. ホーム やつわ/柴田屋	33
7. きらり	35
8. きつずる一む クローバー	36

I 事業結果

平成30年度は、中期経営3ヶ年計画の中間年であり、法人や事業所毎の目標にチャレンジし課題に取り組むことで、経営感覚を養うと共に利用者サービスの向上を図ったが、職員への浸透が不十分であった。

安定経営基盤の盤石化を目指した。自立支援費収入は、利用者数、利用率は前年比ほぼ横ばいであったが、報酬制度を研究し加算取得することで、職員数や専門資格保持者の配置を見直し、収入は大きく増加した。溪明園事業所（入所）では、利用者の老人施設への移転や身体機能の低下、及び病理に伴う退所者等が増加した一方で、その減員を補充できなかったことから利用率は伸び悩んだ。花椿事業所（入所）は、前年度同様、利用者の定員を満たしていたことから、利用率は、ほぼ横ばいであったが、加算取得により収入は増加した。

事務員、支援職員を確保することで事務処理及び利用者支援サービスの向上を目指し、新規に事務員1名、支援職員1名（いずれも正規職員）採用したが、当初の採用予定数は得られず、また、年度途中での離職者（臨時職員等）もあり、人材確保は困難を極めた。その一方で、人件費の高騰増加による経営圧迫が懸念され今後の課題である。

新たな事業として、地域のニーズに応え砺波市に放課後等デイサービス事業所きつずる一むクローバーをオープンした。定員割れからのスタートであったが、年度末には概ね定員を満たすまでに至った。初年度は赤字経営となったが、利用者を常時確保し利用率を上げることで課題を解消したい。

地域生活支援研究会から引き継いだ綾子/石動事業準備室において、改正障害者総合支援法の新制度に基づいたグループホーム等をベースに、高齢、重度利用者の支援のあり方、また地域の障害児等の支援について協議し、一定の方向を見出し、事業計画及び予算書（概算）を策定し、富山県に事業の補助申請をした。

総じて、利用定員確保、支援職員の確保、人件費の高騰、利用者の高齢化対策等に課題を残すものの健全な経営がなされたと思われる。

1 法人体制

(1) 理事会・評議員会等

理事会を4回、評議員会を1回、評議員選任・解任委員会を1回、監査会を1回開催。その他 法人役員先進施設視察研修を1回開催。

(2) 採用

- 1) 新規採用職員 事務局員1名 支援職員1名
- 2) 退職者 支援職員3名

(3) 会議

- 1) 理事長、施設長(管理者)等で構成される経営委員会を毎週定例的に開催し、法人の経営及び事業の進捗状況を確認した。
- 2) 理事長、施設長(管理者)、課長等で構成される運営委員会を毎月定例的に開催し、事業所毎の経営及び事業の進捗を確認した。
- 3) 課長会議を毎月定例的に開催し、事業所毎の状況把握、課題整理、連絡調整等を行った。
- 4) 各種委員会を原則毎月定期的に開催し、テーマ毎に協議した。
- 5) 事業所毎に毎月支援担当(生活支援、日中活動支援)会議を開催し、利用者個々のニーズに対応すべくサービス体制を整えた。

2 平成 30 年度 事業運営評価と課題

(1) 安定した経営基盤の確立

- 1) **経営計画に基づく事業の実施** 平成 30 年度事業計画に基づいた大型設備の購入(更新)や改修等施設整備については、概ねその事業を達成した。一方、中期経営計画(2018)については、毎月経営/運営委員会で確認し、その進捗を共有したが、十分に推し進めることができず、目標を達成できなかった項目も複数あり、推進方法が次年度の課題である。
- 2) **経営実態の適時把握と対応** 経営実態については、毎月下旬に定期開催される運営員会で前月の経営実績等の情報を共有した。速報値として、毎週開催される経営委員会で報告できるよう努めたが、実現せず、今後の課題である。
- 3) **利用率の向上** 利用定員については、一部を除き概ね定員を確保したが、いずれの事業所も利用者の出入りが頻繁であった。利用率の一定レベル(95%)の維持を目標としたが、入所支援サービス、日中活動支援サービス共に、定員割れしている事業所を除き概ね達成した。多機能型事業所花椿かがやき(いろは)は、就労移行支援事業利用者確保できず、事業定員を見直すと共に、新たに就労定着支援事業を開始した。
- 4) **コスト意識の徹底** 課長からなる業務改善委員会を組織し、業務の見直しと職員のコスト削減に対する意識を図ったが機能せず、次年度の課題となった。
- 5) **将来的な資金の確保** 経営委員会、運営委員会を通して、各事業所の経営状況を報告、確認することで、法人の財務状況について認識を共有し、利用率の向上等を目指した。綾子石動事業(仮称)に係る予算を見積もると共に、国・県に対して、同事業に対する補助金を申請した。
- 6) **サービスの客観的評価の実施** 湊明園からまつ事業所において、第三者評価を受審し、客観的な評価を通して、多くの気付きと改善点が確認された。

(2) 人材の育成

- 1) **職員研修プログラムの体系化** 研修推進委員会を組織し、法人事業としての研修プログラムを体系化した。SDS(自己啓発研修)を推進すると共に、アンケートを通して職員個々の潜在能力や才能を発掘した。また昨年度に引き続きポスター発表の機会を設けることで、コミュニケーションスキル等の向上が図られた。
- 2) **資格取得の推進及び自己啓発の促進** 支援サービスの向上等に係る資格については、その取得を推進するために、手当等の支給について提案し、労使協議したが結論には至らなかった。また、資格取得を推進することで自己啓発を図ったが、周知不足であった。
- 3) **職場環境等の充実** 働き方改革を推進するために、職員の福利厚生や休暇制度、保育料助成、処遇改善(案)等について、提案し労使で協議したが、結論には至らなかった。

(3) サービスの質の向上

- 1) **生活環境等の整備** 年齢や障害特性に応じた支援プログラムを提供すると共に経年劣化した設備(湊明園 ボイラー 大型洗濯機 同衣類乾燥機等)を更新したり、高齢者や介助者に優しいトイレ(湊明園)や悪臭対策を施したトイレ(花椿)に改修した。
- 2) **人権に配慮した支援の推進** 人権権利擁護委員会を定期的開催することで、虐待防止意識を高め、利用者の人権を護ると共に自己決定支援を推進した。

- 3) サービス満足度の追求 サービス適正化委員会を定期的開催し、個別支援計画について検証すると共に、利用者への生活や日中活動支援に関するアンケート調査を実施し、今後の支援に向けた資料を作成した。

3 法人人事

(1) 評議員の補欠選任

- ・村上保英評議員の退任に伴い、新たに山田豊一評議員が選任された。

4 整備事業

(1) 溪明園あすなろボイラー設置工事

総事業費：5,700 千円（税抜き）

落札業者：(株)新星

(2) 溪明園からまつ/あすなろ 大型洗濯機/衣類乾燥機更新工事

総事業費：2,120 千円（税抜き）

随意契約業者：(株)ベストケアメディカル

(3) 溪明園からまつ2階トイレ改修工事

総事業費：4,650 千円（税抜き）

随意契約業者：山ワ建設工業(株)

(4) 溪明会綾子石動事業所（仮称）新築工事に伴う設計監理業務契約

総事業費：11,500 千円（税抜き）

落札業者：(株)エヌ・アンド・ピィ・アーキテクト

(5) 花椿きらめきトイレ改修工事

総事業費：11,000 千円（税抜き）

随意契約業者：(株)横川組

(6) 花椿きらめき/あおぞらボイラー設置工事

総事業費：2,800 千円（税抜き）

随意契約業者：新星(株)

5 事業実績

(1) 施設入所支援事業

花椿あおぞらは年間を通して定員が満たされたが、同きらめきは退所者が1名あった。溪明園は入退所が頻繁で、前年度欠員の補充がままならなかった。溪明園、花椿両事業所とも利用率は前年度並みであった。入所定員に対し溪明園からまつ-4 あすなろ±0。花椿はきらめき-1 あおぞら±0。

事業所	平成29年度		平成30年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園からまつ	12,634 人	86.5%	12,546 人	85.9%
溪明園あすなろ	10,714 人	97.8%	10,736 人	98.0%
花椿きらめき	10,525 人	96.1%	10,539 人	96.2%
花椿あおぞら	10,758 人	98.2%	10,739 人	98.1%

(2) 生活介護事業

溪明園あすなろ、同めるへの利用率は、前年度対比すると下回ったものの100%を超過した。花椿きらめき、あおぞらは施設入所支援定員30名に対し、

生活介護が定員 40 名であることに起因し定員割れしているが、前年に比べ、きらめきは±0 あおぞらは+2 増員となった。一方、花椿かがやき利用率は、昨年同様、高水準を維持している。利用定員に対し溪明園からまつ-3 あすなろ+1 めるへん+2 花椿きらめき-4 あおぞら-1 かがやき+3。

事業所	平成 29 年度		平成 30 年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園からまつ	8,954 人	90.6%	9,049 人	91.2%
溪明園あすなろ	7,450 人	102.0%	7,462 人	100.0%
溪明園めるへん	1,599 人	105.3%	1,586 人	104.4%
花椿きらめき	8,493 人	84.9%	8,678 人	86.8%
花椿あおぞら	8,717 人	87.1%	8,859 人	88.6%
花椿かがやき	3,599 人	107.7%	3,599 人	107.7%

(3) 就労継続支援B型事業

溪明園めるへんは、1 名減員となったことで利用率は下がったが、高水準を維持している。花椿かがやきの利用率は、利用が安定していないことで低下した。利用定員に対し溪明園めるへん+1 花椿かがやき±0。

事業所	平成 29 年度		平成 30 年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
溪明園めるへん	3,877 人	109.4%	3,705 人	104.6%
花椿かがやき	2,829 人	91.7%	2,718 人	88.1%

(4) 就労移行支援事業

平成 29 年度に 5 名が就職した。有期限内で一般就労等に繋げねばならない事業の為、利用者の出入りが頻繁である。A 型事業所等の進出で就職した利用者の充足がままならなかった。利用定員に対し花椿いろは-4。

事業所	平成 29 年度		平成 30 年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
花椿いろは	896 人	29.1%	1,200 人	40.0%

(5) 就労定着支援事業

平成 30 年 11 月より定員 6 名で事業を開始し、利用者 1 名が契約中である。平成 30 年度施行の改正障害者総合支援法の新規事業であり、今後の推移を見守りたい。

事業所	平成 29 年度		平成 30 年度	
	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
花椿いろは	—	—	3	16.0%

(6) 短期入所事業

溪明園からまつの増加は既存利用者の利用頻度が増したことに起因している。あすなろは空きベッドがないことから実質受入れ不可である。花椿きらめき利用者の増加は、新たな利用者が増えたことによるものである。同あおぞらは若干減少となった

事業所	平成 29 年度	平成 30 年度
	延べ利用日数	延べ利用日数

溪明園からまつ	381人	414人
溪明園あすなる	2人	0人
花椿きらめき	604人	780人
花椿あおぞら	388人	343人

(6) **グループホーム事業**

7箇所のグループホームは2箇所で定員割れし、定員の充足が課題である。また、利用者の高齢化が課題であり、高齢化対応事業による再編が望まれる。

(7) **相談支援事業、療育等支援事業**

溪明園、花椿での指定特定相談支援業務をきらりに集約したことで、相談担当者を増員し対応した。相談支援委託費は、サービス利用計画作成実績の増加に伴い収入増となった。

II 2018事業所アクションプラン結果

障害者支援施設 溪明園からまつ

1 実施事業

入所支援事業（40名）、生活介護事業（40名）、短期入所事業（空床型）、居宅介護事業、行動援護事業、日中一時支援事業、移動支援事業

2 アクションプランと評価

1) 施設内外及び利用者の生活環境の整備と定員（40名）の確保

(ポイント1) 施設内設備・環境の整備

トイレの改修、ボイラーの更新、浄化槽清掃等、当初掲げた目標は達成した。からまつ2階男女利用者トイレをバリアフリー化し、介助可能なスペースを確保したことで利用者は勿論職員の支援業務の改善にも繋がった。経年劣化したボイラー及び業務用洗濯機/同衣類乾燥機の更新により、不具合等に悩まされることなくスムーズに入浴支援及び洗濯等業務が遂行できた。また、故障したエアコンを更新し、快適な住環境を提供した。業者による浄化槽清掃を実施し、衛生管理面にも留意した。

(ポイント2) 入所希望利用者の随時面談

入所希望者の面談は8件あり、そのうち3件が入所に繋がった。その一方で、既存利用者の医療機関等への転院、病気による死亡等により、定員（40名）の確保はできなかった。

2) 高齢利用者に適した生活環境の整備と支援方法の確立

(ポイント1) 理学療法士による指導プログラムの実践

高齢利用者の身体機能の維持・増進を目的に北陸中央病院（協力医療機関）から理学療法士を定期的に招き、専門的な指導・訓練を受けた。今年度は7人の利用者の個別指導を達成した。

3) 地域との絆を深め、共に活動する

(ポイント1) 地域の児童や保育園児を招き、利用者と共に竹の子堀りや梅の収穫を体験し、喜びを分かち合う。

児童クラブ、保育所、放課後等デイサービス利用児童等と共に、竹の子堀り体験等を通して、交流を図り、相互理解を深めた。

(ポイント2) 竹チップ・菌床を使用した花壇の設置

施設内で竹チップや菌床を活用した花壇は設置できたが、地域の花壇に手を広げることができなかった。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数 13,140 人（前年比+5%）稼働率 90.0%
実績：同 上 12,546 人 同 上 85.9%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数 8,640 人（前年比+4%）稼働率 90.0%
実績：同 上 9,049 人 同 上 91.2%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数： 420 人
実績：同 上 414 人

障害者支援施設 溪明園あすなろ

1 実施事業

入所支援事業（30名）、生活介護事業（30名）、短期入所事業（空床型）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 高齢利用者に対応した環境整備と支援技術の向上

（ポイント1）高齢化に対応した設備と改修

利用者の重度高齢化に伴い入浴リフトを導入し、入浴による利用者の危険を回避すると共に職員の心身にわたる負担を軽減した。

（ポイント2）高齢化に対応した研修の実施

年間4人の職員の高齢化に対応するための研修への参加を掲げ達成した。

（ポイント3）理学療法士による指導プログラムの実践

高齢利用者の身体機能の維持・増進を目的に北陸中央病院（協力医療機関）から理学療法士を定期的に招き、専門的な指導・訓練を受けた。今年度は6人の利用者の個別指導を達成した。

2) 強度行動障害利用者の日課の見直し及び環境の整備

（ポイント1）強度行動障害利用者の生活の質の向上

個々に応じた日中活動プログラムを計画し、環境を整えたが、全員対応には至らなかった。また、職員向けに強度行動障害利用者への理解を深めるために、県の研修を受講した職員が講義し、全職員への周知を図った。

（ポイント2）強度行動障害利用者の個別支援計画書の活用

個別支援計画書の定期的（4回/年）な見直しを目標に掲げたが2回の見直しに留まった。

3) 経年劣化した設備の更新

（ポイント）設備の更新

経年劣化したボイラー及び業務用洗濯機/同衣類乾燥機の更新により、不具合等に悩まされることなくスムーズに入浴支援及び洗濯等業務が遂行できた。また、故障したエアコンを更新し、快適な住環境を提供した。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数 10,400 人（前年比+0%）稼働率 95.0%
実績：同 上 10,736 人 同 上 98.0%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数 7,200 人（前年比±0%）稼働率 98.0%

実績：同 上

7,462 人

同 上 100.0%

多機能型事業所 溪明園めるへん

1 実施事業

生活介護事業（6名）、就労継続支援B型事業（14名）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) 焼菓子・パンの販売価格見直しとコスト削減

（ポイント1）商品原価の確認と原材料等の見直し

商品原価について随時確認しているが、全商品には至っておらず、今後も継続した確認が必要である。原材料等の見直しは、材料コストの高いものや賞味期限の短いものに関して、内容等の変更を実施した。

（ポイント2）人気商品中心の製造と製造ロス等によるコスト削減

移動販売、店舗販売（ルリアン含む）での売れ残り商品をチェックし、不人気商品を製造ラインから外した。また店舗（ルリアン含む）において、嗜好等アンケート調査を実施した。

2) 増収による平均工賃の向上（10,000円/月）

（ポイント1）外部販売先の拡大による売上増収を図る

新たな外部販売先4箇所に加え、新規イベント販売等にも参加し、販路、売り上げの拡大に繋がった。一方で、何箇所かで販路が途絶えた。

（ポイント2）施設外就労清掃業務のスキルの向上と新規施設外就労に向けた体制整備

清掃箇所の作業分担と振り返りを行い、スキルの向上と定着を図った。また、11月より新たな施設外就労1箇所獲得し、定着に向け取組んだ。（平成30年度一人当たりの平均月額工賃実績16,164円）

3) 焼菓子・パン製造のスキルアップ、接遇・マナーの向上を図り、地域に愛される事業所を目指す。

（ポイント1）外部研修による製造スキル及び接遇マナーの向上

外部講師を招聘し、利用者も交えた接遇マナー研修や製造スキル向上研修を実施した。

4) 室内活動の充実

（ポイント1）ペットボトルによるビーズ作品作りの実施

溪明園祭の装飾品として5作品を展示した。

（ポイント2）めるへん清掃作業・グループホームエアコン清掃等備品手入れ

日中活動プログラムに組み込めず、定期的な清掃等作業はできなかった。

5) 利用者の増員

（ポイント1）相談事業所（きらり）との連携による利用者増員

既に定員が充足されているため、新規受入れはなかったが、将来的な利用を見据えた作業体験（実習）の受入れを行った。

3 事業別数値目標達成度

1) 就労継続支援B型事業

目標：年間利用者数 3,748人（前年比-4%）稼働率 105.0%

実績：同 上 3,705人 同 上 104.6%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数 1,616人（前年比+1%）稼働率 106.0%

実績：同 上 1,586人 同 上 104.4%

障害者支援施設 花椿きらめき

1 実施事業

入所支援事業（30名）、生活介護事業（40名）、短期入所事業（併設型2床+空床型）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) マニュアルを見直し、サービスの質の向上または維持を図る

（ポイント1）マニュアルの確認・見直し

日中活動における支援マニュアルを確認、見直しし、サービスの質の向上を図った。入所支援におけるマニュアル細部については見直すことができなかった。

2) 年間を通じた計画的な施設内研修、現場研修を進める

（ポイント1）施設内外研修、現場研修の実施

委員会と連携し施設内研修を年間8回実施した。施設外研修は一人一研修参加し、知識や技術を学んだ。施設内で日頃の支援に活かせるポイントを絞った研修報告を行い、実践に取り入れた。

3) 支援会議の頻度を増し、チーム支援と業務の効率化をすすめる

（ポイント1）支援会議の実施

あおぞら事業所と協力することで、できるだけ多くの職員が出席する支援会議を実施した。情報を共有し、チーム支援に繋げることができた。業務の効率化までには至らなかった。

4) 年齢、障害特性など、ニーズに合わせた支援の実施

（ポイント1）生活環境の改善

換気扇修理、トイレ改修に取り掛かり、生活環境の改善を図った。

（ポイント2）日中活動の充実

月間予定表を掲示することで、見通しの立つ充実した活動を提供できた。契約には至らなかったが、就業体験を受入れ、次年度の利用希望に繋げた

（ポイント3）地域での活動の拡大

アルミ缶の回収先を増やすことはできなかったが、地域の道路を清掃した。

（ポイント4）地域移行に向けた支援の実施

グループホームの体験を行うことができなかった。

5) 短期入所の利用率増加を目指す

（ポイント1）相談事業所への働きかけ

相談支援事業所に働き掛け、短期入所支援の利用目的を共有し、随時見学や面談に対応した。新規に5名の利用があった。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数	10,620人	（前年比+1%）	稼働率	97.0%
実績：同 上	10,539人		同 上	96.0%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数	7,740人	（前年比+2%）	稼働率	86.0%
実績：同 上	8,678人		同 上	86.8%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数：	420人
実績：同 上	780人

障害者支援施設 花椿あおぞら

1 実施事業

入所支援事業（30名）、生活介護事業（40名）、短期入所事業（併設型2床＋空床型）、日中一時支援事業

2 アクションプランと評価

1) マニュアルを見直し、サービスの質の向上または維持を図る

（ポイント1）マニュアルの確認・見直し

入所支援、日中活動における支援マニュアルの見直しを行い、統一した支援を実施することでサービスの質が向上した。

2) 年間を通じた計画的な施設内研修、現場研修を進める

（ポイント1）施設内外研修、現場研修の実施

委員会と連携し施設内研修を年間8回実施した。施設外研修は一人一研修参加し、知識や技術を学んだ。施設内で日頃の支援に活かせるポイントを絞った研修報告を行い、実践に取り入れた。

3) 支援会議の頻度を増し、チーム支援と業務の効率化をすすめる

（ポイント1）支援会議の実施

きらめき事業所と協力することで、日中月1回定期的な支援会議が実施できた。また、個別支援について、適宜必要人数で話し合うミニ支援会議を設けることでスピーディーに情報を共有しあいチーム支援に繋げることができた。業務の効率化までには至らなかった。

4) 施設内外の安全面、衛生面に留意し、快適なサービスを提供する

（ポイント1）施設内整備・清潔保持

トイレ改修には至らなかったが、電解水や次亜塩素酸を使用したトイレの床拭きを徹底することで悪臭を防ぐことができた。また、換気扇を修理すると共に業者清掃を依頼した。

5) 年齢や障害特性に応じた支援の実施

（ポイント1）個に応じた支援方法の追求

個別に食事や入浴時の順番や移動の日課を見直し、写真等で分かり易く示すことで、見通しが立てられるようになり、トラブルが減少した。また、月に1度理学療法士を招き、助言を受け、高齢利用者の身体機能の維持を図った。

6) 地域やかがやき事業所と連携し、安定した生産から加工品製造を目指す

（ポイント1）安定した生産・製造活動

当初、味噌をかがやき事業所と協力して生産する予定であったが、年度途中に、各事業所の得意とする分野の活動に修正した。漬物、黒豆、にんにく、ジャム等の製造を主に取組んだ。漬物は各イベントに合わせ、自家栽培した大根やきゅうり等の野菜を加工し、継続的に製造販売した。ジャムは、地域や保護者からの情報により材料を調達し、季節に応じた果物により製造した。イベント販売が主で、通年での安定した生産には至っていない。

3 事業別数値目標達成度

1) 入所支援事業

目標：年間利用者数 10,700人（前年比±0%）稼働率 98.0%

実績：同 上 10,739人 同 上 98.0%

2) 生活介護事業

目標：年間利用者数 9,000人（前年比+3%）稼働率 90.0%

実績：同 上 8,859人 同 上 88.6%

3) 短期入所事業

目標：年間利用者数： 350 人

実績：同 上 343 人

多機能型事業所 花椿かがやき

1 実施事業

就労移行支援事業（10名）、就労継続支援B型事業（12名）、生活介護事業（14名）、就労定着支援事業、居宅介護事業、行動援護事業、日中一時支援事業、移動支援事業

2 アクションプランと評価

1) 利用者獲得のための広報活動の充実

（ポイント1）個別面談と就労に向けた資格取得プログラムの実施

月1回以上、利用者、家族を交えて個別面談の機会を設け、活動の振り返りと今後の取組み確認を重ねた。就労または新たな要望に向けた資格の情報提供及び相談を実施し、個々の要望に合わせて段階的に取組み中である。

（ポイント2）関係機関へ出向き、事業所の説明や見学案内

関係機関との会議での情報提供に加え、ホームページによる事業所紹介を掲載した。見学者（11件）、電話相談（1件）、体験利用（4件）など、随時受入れ、新たな利用者獲得のための広報活動に取り組んだ。

2) あおぞら事業所と協力し、味噌生産・販売の実施

（ポイント1）定期的な味噌生産と販路拡大

あおぞら事業所と協働し、味噌の製造を計画したが、味噌の生産量は約450kg/年と目標に達しなかったものの、毎月花椿の給食やホーム柴田屋へ納入した。また、地域イベント（福野歳の大市、井口つばき祭り、ねんりんピック等）で、味噌や黒豆、その他自主製品を販売した。

（ポイント2）安定的な商品開発

味噌製造の技術指導として、石黒種麴店主による講習会を開催し、利用者、職員の製造技術の向上を図った。

3) 社会貢献活動や社会資源を積極的に活用し、更に地域との繋がりを深める

（ポイント1）社会貢献活動実施（児童クラブとの交流、地域清掃活動、玉成公民館清掃、キャップ回収など）

月間計画に基づき、生活介護事業所を中心とした利用者、職員が毎月10回以上の活動に参加し、目標を達成した。

（ポイント2）社会資源活用（体育館、図書館、地域イベント参加など）

利用者の特性や興味・関心によるグループを編成し、計画的に地域行事や公共施設を利用した活動に毎月10回以上取り組んだ。

4) 高齢となりつつある利用者の個々に対応した体力維持向上を図る

地域の高齢グループ活動に週1回参加し、体力維持の取組みを継続して実施した。

3 事業別数値目標達成度

1) 就労移行支援事業

目標：年間利用者数 1,478人（前年比+42%）稼働率 70.0%

実績：同 上 1,200人（前年比+34%）同 上 40.0%

2) 就労継続支援B型事業

目標：年間利用者数 2,851人（前年比+2%）稼働率 90.0%

実績：同 上	2,718 人（前年比－4%）	同 上 88.1%
3) 生活介護事業		
目標：年間利用者数	3,427 人（前年比＋2%）	稼働率 103.0%
実績：同 上	3,599 人（前年比±0%）	同 上 107.7%

ホームやつわ、ホームあやこ、ホームいするぎ

1 実施事業

共同生活援助事業（19 名）

2 アクションプランと評価

1) ホームやつわへの世話人増員による 24 時間支援体制の確立

（ポイント 1）ホームやつわ世話人 1 名の増員

ホーム全体では、世話人希望者の面談は 5 件あり、そのうち 3 名が採用となったが、その一方で 2 名が退職し、結果的には 1 名の増員となった。

（ポイント 2）ホームやつわ 24 時間支援体制の確立

年度当初での世話人の増員はできなかったが、世話人の配置換えを行うことで、年度当初からホームやつわの 24 時間支援体制を実現した。

2) 世話人会議での世話人業務の確認、利用者支援方法の統一化

（ポイント 1）世話人配置の見直し

一部のホームで世話人配置を見直した。

（ポイント 2）業務の見直し

ホーム支援会議及び世話人会議を隔月で実施し、世話人業務の確認と見直し、支援状況の確認と支援方法の見直し、統一を図った。併せて、世話人との情報の共有化及び支援職員の支援体制を見直した。世話人の異動が頻繁に行われたため、既存業務の周知に徹底し、業務改善には至らなかった。

3) 世話人の支援レベルの向上

（ポイント 1）専門研修受講によるスキルアップ

ホーム柴田屋の見学研修及び世話人、職員の意見交換会を実施した。研修会後の計画的な振り返りはできなかった。また、外部研修にも参加できなかった。

4) 高齢利用者への安全支援

（ポイント 1）安全見守り支援方法の統一

世話人会議を隔月で実施し、健康及び安全に十分配慮した支援の見直し及び支援方法の確認と統一を図った。

3 事業別数値目標達成度

1) 共同生活援助事業

目標：年間利用者数	6,776 人（前年比±0%）	稼働率 97.0%
実績：同 上	6,630 人	同 上 95.6%

ホーム柴田屋、ホーム柴田屋みなみ、ホーム庄川、ホーム庄川第 2

1 実施事業

共同生活援助事業（22 名）

2 アクションプランと評価

1) 利用者の健康、安全面に配慮し、定期受診の計画的な付添いを行う

（ポイント 1）受診付添

利用者の心身の状態に合わせ付添い受診し、月 10 回以上の目標を達成した。

2) 地域での活動やイベントに参加し、地域との交流を深める

(ポイント1) 地域交流活動の参加

地域イベントや販売に加え、地域ボランティア（19回/年）として、顔の見える関係づくりに努めた。

3) 高齢、重度化に伴いサポートが必要な利用者に対応した支援を行う

(ポイント1) 日常生活支援・バイタルチェック

日頃からバイタル測定を継続し、心身の変化に迅速な対応を心掛けた。ホーム職員との連携体制や情報共有の体制作りを図った。

3 事業別数値目標達成度

1) 共同生活援助事業

目標：年間利用者数	7,227人（前年比+7%）	稼働率	95.0%
実績：同 上	7,642人（前年比+7%）	同 上	95.0%

障がい者サポートセンターきらり（相談系事業）

1 実施事業

障害者相談支援事業、地域移行支援事業、地域定着支援事業、指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業、障害児療育等支援事業

2 アクションプランと評価

1) 地域のニーズに即した高度な相談支援

(ポイント1) 自立支援協議会参加によるニーズ収集

平成30年度においては、砺波地域障害者自立支援協議会の事務局として、毎月開催される定例会、幹事会及び全大会の運営を砺波市と協力し実施した。

相談支援ワーキングの部会員として、サービス報酬研修会、当事者委員会、権利擁護虐待防止委員会、地域移行研修会を開催し、地域の支援者が研修を受ける機会を設けた。

自立支援協議会全体会において、きらりにおける相談支援の実態を報告し、地域ニーズに対する支援者の絶対数が不足していることについて提言した。

2) 利用者のストレングスに着目したサービス等利用計画

(ポイント1) 研修参加によるスキルの向上

富山県相談支援専門員協会の役員を務め、富山県における相談支援専門員研修（初任者・現任）のファシリテーターを務める等、砺波地域内外を問わず相談支援専門員の質の向上を目的とした研修会の運営に協力した。

強度行動障害支援者養成研修（実践）を相談支援専門員（2名）が受講、また、年3回開催される相談支援専門員事業所連絡会に参加し、高度で専門的な情報を収集することで、高い専門性が必要となる対象者に対しての質の高いサービス等利用計画作成に務めた。

3) 利用者が親しみやすく、相談しやすい雰囲気の仕事所

(ポイント1) 明るい職場環境の形成

毎朝礼時に同日業務スケジュールを確認し、各職員の業務内容の周知に努めた。相談等ケースにおいては、必要な情報を共有し、チーム支援体制を心掛けた。困難ケースに関しては、経験豊かな相談支援専門員が、その都度スーパーバイズし、支援者の悩みの早期解決を図った。

相談利用者の通う事業所に弁当を発注し、相談員が会食する等、業務と休憩を明確に分離し、休憩時には職員の生活面での情報交換等、職員同士が相談し易い環境づくりに務めた。事業所内の雰囲気を明るくすることで、来所された相談者に対して、安心して相談を委ねられる環境を整えた。

4) 地域で不足している資源を補う活動内容

(ポイント1) 充実した療育支援の実施

外来療育指導事業として、料理教室（2回/月）、リズム体操（2回/月）、ヨガ教室（1回/月）を開催し、延べ203人の障害者が各教室に参加し、自立学習に取り組んだ。

施設支援療育指導として、圏域内の小学校を訪問し、教職員に対し、専門的な支援手法について指導した。（2回）

地域のニーズを集約し講師との意見交換を重ねた結果、平成30年度で料理教室を休止することとした。その一方、平成31年度から茶道教室、ヒーリング演奏会の追加を予定している。

3 事業別数値目標達成度

1) 障害者相談支援事業

目標：年間相談支援件数	8,000件
実績：同 上	9,070件（者7,914件/児1,156件）（達成率113%）
目標：訪問・来所相談件数	2,800件
実績：同 上	3,740件（達成率134%）

2) 指定特定相談支援事業

目標：計画立案者数	400名
実績：同 上	429名（達成率107%）

3) 障害児等療育支援事業

目標：訪問療育指導件数	20件
実績：同 上	0件（達成率0%）
目標：外来療育等指導目標件数	320件
実績：同 上	203件（達成率63%）
目標：施設支援一般指導目標件数	2件
実績：同 上	2件（達成率100%）

障がい者サポートセンターきらり（障害者就業・生活支援センター事業）

1 実施事業

障害者就業・生活支援センター事業

2 アクションプランと評価

1) 相談者のニーズに応じた就業・生活支援

(ポイント1) 職場実習による適応性の見極め

支援対象者に合った求人と一緒に絞り込むのみならず、職場環境のアセスメントを行うための事前見学も実施した。実習受入れ先には、自己紹介書を提出し、得意、不得意及び合理的配慮事項等を伝え、実習者を理解してもらえよう支援した。

(ポイント2) 職場訪問による適応指導

雇用間された支援対象者には、約3ヶ月間は集中的に職場訪問し、本人と受入れ企業双方の声を聞き、本人が適応していけるよう支援した。

(ポイント3) 在職者交流会等による職場定着促進

職場訪問時に、じっくりと聴くことができない職場での悩みや不安等について時間をかけて聴く機会を設けた。また、長く安定した職業生活を続けるために必要なストレス発散方法やコミュニケーション講座等を実施した。

2) 事業主の障害者雇用理解促進

(ポイント1) 事業主向け研修会の開催

事業主向け研修会を高岡障害者就業・生活支援センターと合同で、県西部圏域の一般企業を主な対象に2回実施した。内容は理解が十分に進んでいない発達障害や精神障害の理解に繋がる講演や事業主の取組み事例とした。

3) 関係機関との連携強化

(ポイント1) 関係機関との連絡会議の開催

連携が不可欠なハローワーク砺波や富山障害者職業センターとの連絡会議では、支援対象者の支援経過の共有や、困難ケースの対応についての意見交換等を行った。また、砺波圏域内の就労移行支援事業所との連絡会議では、それぞれが抱えている課題について意見交換したり、県外の先進的な取組みをしている事業所視察を行った。

4) 職員の資質及び専門性の向上

(ポイント1) 研修会参加及び報告会による資質向上

研修参加職員は、スタッフ会議で伝達講習を行い、有益情報をスタッフ全員が共有することで、その後の活動に活かすよう努めた。

(ポイント2) スタッフ間の情報共有、事例検討等

職員個々が抱える困難事案を共有したり、対応について意見交換することで、より客観的かつ適切な支援ができるよう努めた。

3 事業別数値目標達成度

1) 相談者支援

目標：職場実習の斡旋件数	35 件/年
実績：同 上	38 件/年 (達成率 108%)
目標：就職目標件数	40 件/年
実績：同 上	50 件/年 (達成率 125%)
目標：職場定着訪問件数	500 件/年
実績：同 上	386 件/年 (達成率 77%)
目標：きらりクラブ・生活講座開催数	6 回/年
実績：同 上	6 回/年 (達成率 100%)

2) 事業主支援

目標：研修会開催数	2 回/年
実績：同 上	2 回/年 (達成率 100%)

3) 関係機関連携強化

目標：ハローワーク、就労移行支援事業所等との連絡会議開催数	12 回/年
実績：同 上	12 回/年 (達成率 100%)
目標：就労移行支援事業所との連絡会議目標開催数	12 回/年
実績：同 上	5 回/年 (達成率 41%)

4) 職員資質向上

目標：研修会参加及び報告会	4 人 8 回以上/年
実績：同 上	4 人 7 回/年 (達成率 87%)
目標：スタッフ会議の実施	12 回/年
実績：同 上	6 回/年 (達成率 50%)

放課後等デイサービス事業所きつずるーむクローバー

1 実施事業

放課後等児童デイサービス

2 アクションプランと評価

1) 1日あたり10人の利用を目指す(対象:小学1年~高校3年 登録者数:40名)

(ポイント1) 利用者の登録促進

相談支援事業所からの相談に頼ることが多かったが、小中学校の教員と保護者にPRするよう努めた。年度当初契約者数は4名だったが年度末には17名に増えた。

2) 利用者が楽しく活動できる支援の組立

(ポイント1) 運営方法の確立(事務、管理等)

請求事務等他の事業所との定型化を図った。また、利用者の急な休みによる人数変更に伴う職員配置の調整に苦慮した。

3) 地域に活動場所を求める

(ポイント1) 富山県西部体育館 他 近隣施設活用

富山県西部体育センター、砺波市立図書館、近隣公園、スーパー、運動施設などに活動場所を求めた。

4) 地域に講師やボランティアを求める

(ポイント1) 近隣自治体、砺波高校、高岡法科大学、社協他への依頼

砺波高校、高岡法科大学にボランティアの依頼を打診したが、受諾されなかった。実習生のネットワークによる学生や地域の方、溪明会職員、及び同家族のボランティアを受け入れた。

3 事業別数値目標達成度

1) 放課後等児童デイサービス

目標:年間利用者数	2,190人	稼働率	100.0%
実績:同上	1,550人	同上	65.2%